

脈々 高蔵魂^{スピリッツ}

(創立者 市邨芳樹のことば)

「患難に生き逸楽に死す」

人生にしても事業にしても、順風満帆に事が運ぶと見えるのは瞬時で、その時ですら新たな難局が既に^{はら}孕まれている。

戦^{いくさ}は、兵だけでは戦えない。必ずや将たる者が必要となる。将とは、敵の^{たまごすま}弾襖の中で立ち上がる者だ。

兵と一緒に嘆き、兵と共に尻込みしては、坐して^{ぎよくさい}玉砕を待つ他ない。人の上に立ち、人を率いるにも、犠牲的精神。

適当なる組織をつくるは将の智・・・其の組織を巧妙に運用するは将の仁と信と厳・・・
斯^かくて法は^{ひっきょう}畢竟将に帰す。 (「藪樁」7-2)